

💡 令和7年度の「WITH」第3号は「リハイク」、「リハイク振り返り会」について紹介します

☆「リハイク」

令和2年度から始まった特別支援学校リハビリ相談事業「リハイク」は今年度で6年目になります。福井県こども療育センターの専門職員が特別支援学校からの要請に応じて、障がいのある児童生徒の学習や生活現場における介助・支援方法等について、医学的視点から教員に助言などを行う取り組みです。今年度は言語聴覚士(ST)や作業療法士(OT)、理学療法士(PT)、心理士の方々に来校していただき、様々なケースに応じた指導、助言等をしていただきました。今年度、本校では教員12名の相談がありました。

リハイクを申し込んだ教員からは…

- ・発音指導について、これまで一音ずつゆっくりはっきり発音させることが良いと思っていたが、単語のかたまりで滑らかに発音するよう促す方が効果的であると知ることができた。
- ・体の動きの面でさまざまなアプローチがあることを知ることができ、よい機会だった。言葉についても日常的な会話ややり取りを大切にしていきたい。
- ・児童の障がいについて学んできたつもりではあったが、心理士さんに来ていただき直接特性を聞くことで、より理解を深めることができた。
- ・リハイクを継続して利用することで、児童の成長を客観的に知ることができ、このまま支援を続けていけばよいと背中を押してもらえたことが嬉しかった。

などの感想がありました



☆「リハイク振り返り会」

今年度は全リハイク実施後の1月にこども療育センターの方々にお願いいただき、「リハイク振り返り会」を行いました。この会では、今年度リハイクを利用した教員から相談の概要とその後の取り組みや児童生徒の変化等について報告した後、センターの方より、「構音障がいの仕組みと言語能力の関係ー発音がうまくいかない理由を理解するー」というテーマでお話をさせていただきました。参加した教員からは「専門的な話をたくさん聞くことができ勉強になった」「様々な視点から発音指導に取り組んでいきたい」などの感想がありました。今後も福井県こども療育センターの専門職員の方々と継続して連携を取りながらよりよい指導・支援へ繋げていきたいと思っております。



今回の「WITH」についてのご質問やR8年度の「WITH」へのご要望などございましたら連絡エクステンジに添付されているフォームから是非ご回答ください。今後の参考にさせていただきます。